
使用済燃料対策の主な状況

2026年6月18日
電気事業連合会

前回の協議会からの使用済燃料対策の主な状況

1

- 前回の協議会からの使用済燃料対策の主な状況については、次回の使用済燃料対策推進計画の更新に反映

取組	会社名	主な進捗内容
使用済燃料対策 ロードマップ	関西電力	➤ 使用済MOX燃料再処理実証研究 ✓ 2025年5月に輸送容器の容器承認を申請し、容器承認取得に向けて取り組み中。 ✓ 現在、全12基の輸送容器のうち、2基は製作完了。残り10基分も計画通り製作中。 ✓ 完成した輸送容器を用いた取扱い手順等の事前確認を仏国にて実施。
	東北電力	➤ 乾式貯施設の設置（女川） ✓ 2025年5月に設置変更許可。 ✓ 2026年2月に設工認申請。
	四国電力	➤ 乾式貯施設（伊方） ✓ 2025年7月に運用開始。 ✓ 現在、4基のキャスクを貯蔵。
乾式貯蔵施設	九州電力	➤ 乾式貯蔵の設置（川内） ✓ 2025年10月に設置変更許可を申請。
	東京電力HD	➤ 中間貯蔵施設（RFS） ✓ 現在、3基のキャスクを貯蔵。 ✓ 2025年12月、当初計画の5,000トンに達しない蓋然性が高いため、事業者間連携についても検討を進めたい旨を地元の説明。
	日本原電	✓ 2026年3月、青森県より、「中間貯蔵事業について実施環境にあるとは確認できない」との見解が示されたことを受け、日本原燃の再処理工場の進捗に向けたオールジャパン体制での支援を継続し、青森県に確認いただけるよう全力で取り組む旨を説明。
中間貯蔵施設	中国電力	➤ 中間貯蔵施設 ✓ 2025年8月、立地可能性調査結果を上関町へ報告。

- 仏国へ使用済燃料を輸送する輸送容器の製作について、予定している全12基分の容器本体及び2基分の衝撃吸収カバーが完成。残り10基分の衝撃吸収カバーについても順調に製作している。
- 完成した輸送容器2基は今後、今年の秋にも高浜発電所に受入れ予定であり、2027年度から計画通り搬出できるように、容器承認の取得に向けて取り組んでいる。

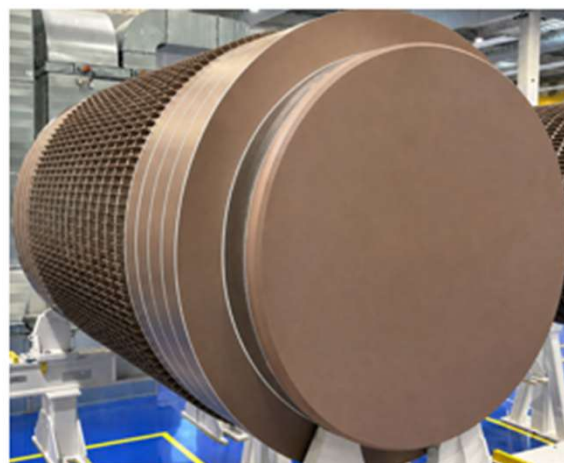


図 TN-Eagle型 輸送容器本体

※：商業機密等の観点から画像を一部加工

○ 仏国への使用済燃料の輸送を安全かつ着実に実施するため、完成した輸送容器を用いて、燃料装荷時に必要となる輸送容器の立て起こし作業の他、輸送容器の船積み・積み下ろし作業の手順などが問題無く実施可能であることを確認。

1. 輸送船・輸送車両に関する輸送容器の取扱い手順等の事前確認（2026年4月実施）

輸送容器の船積み・積み下ろし作業、船倉内での輸送容器の固縛作業および輸送容器の仏国港からラ・アーグ再処理工場への陸上輸送作業について、実際に輸送作業で使用する輸送船・輸送車両や資機材を用いて、問題なく輸送容器を取り扱えることを確認。

2. 発電所における輸送容器取扱い手順等の事前確認（2026年5月実施）

輸送容器への使用済燃料の装荷時に必要となる輸送容器の立て起こし作業や仏国への輸送前に必要となる検査などの手順について、実際の作業・検査で使用する資機材を用いて問題なく輸送容器を取り扱えることを確認。

<参考>：輸送容器イメージ図・仕様



図 TN-Eagle型 輸送容器全体図（イメージ図）

仕 様（乾式）	
輸送物 総重量	約127トン以下 (使用済燃料、衝撃吸収カバー含む)
外径 全長	約3.6m 約8.3m (衝撃吸収カバー含む)
材質	炭素鋼 等
収納体数	26体以下 (うち使用済MOX燃料は0～2体)